

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2010年11月17日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2009000086"/>	整理番号 <input type="text" value="11485"/>	担当者 <input type="text" value="小森 幹雄"/>
表 題	新しいエトリンガイトの定量法と膨張材を混合したセメント硬化体の乾燥収縮量の予測		
技術分野	<input type="text" value="土木・建築"/>	<input type="text" value="無機材料"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="コンクリート、モルタル、無機試薬"/>		
目 的	<p>結晶水を持つケイ酸無機化合物を分析する場合には、真空下への暴露や有機溶剤への浸漬をすることが多い。これらの操作によって化合物は脱水による変質が起こることがある。この変質をできる限り少なくする方法として、改良型真空凍結乾燥法を考案した。</p> <p>この乾燥法の応用展開として、エトリンガイトを生成する膨張材を加えた場合の乾燥収縮量を、コンクリートを練らずとも、ペーストで簡単に予測することが目的である。</p>		
技術概要	<p>1.改良型真空凍結乾燥法 真空凍結乾燥法は、材料を凍結し真空下で加温しながら試料中の水分を昇華させて乾燥する。凍結温度や加温温度、乾燥時間や試料取出し方法が改良された点であり、独自の方法である。</p> <p>2.膨張材を添加したペーストの膨張量とエトリンガイト量 エトリンガイトを生成する膨張材(CSA系)をセメントペーストに混合して材齢7日の膨張量とXRDによるエトリンガイトピーク強度は、図のような関係となる。温度やセメント種の影響を受けにくい。</p> <p>3.コンクリートの膨張量の推定方法 コンクリートの膨張量添加量と乾燥収縮量およびエトリンガイト量を測定してDB化しておく。これをもとにセメントと膨張材を添加したセメントペーストのエトリンガイト量を測定すると、そのセメントと膨張材を使用した時のコンクリートの乾燥収縮量が予測できる。 セメントや膨張材のロット管理にも応用できる。</p>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp